

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
【発行日】平成 17 年 9 月 22 日 (2005.9.22)

【公表番号】特表 2004-500220 (P2004-500220A)  
【公表日】平成 16 年 1 月 8 日 (2004.1.8)  
【年通号数】公開・登録公報 2004-001  
【出願番号】特願 2001-575935 (P2001-575935)  
【国際特許分類第 7 版】  
A 6 1 F 9/007  
【F I】  
A 6 1 F 9/00 5 5 0

【手続補正書】  
【提出日】平成 16 年 1 月 14 日 (2004.1.14)  
【手続補正 1】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】特許請求の範囲  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【特許請求の範囲】  
【請求項 1】

眼球の繊維柱帯の一部を貫通して延びるように形成されたインレット部と、  
前記眼球のシュレム管内に延びるように形成されたアウトレット部とを備えることを特徴とするセトンであって、

さらに、前記インレット部が、前記アウトレット部に対して、前記セトンが概ね L 字状となるような角度をつけて配設されていることを特徴とする前記セトンを特徴とする装置。

【請求項 2】  
前記インレット部と前記アウトレット部との間の角度は、 $70^{\circ}$  から  $110^{\circ}$  であることをさらに特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】  
前記アウトレット部は、長軸線を持つ楕円形断面を有する内腔を備えることをさらに特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 4】  
前記アウトレット部は長手方向軸線を有し、前記アウトレット部の前記長軸線及び長手方向軸線は面を画定し、前記インレット部は前記面の外側であって該面に対して角度で位置する長手方向軸線を有することをさらに特徴とする請求項 3 に記載の装置。

【請求項 5】  
前記角度は、 $70^{\circ}$  から  $110^{\circ}$  であることをさらに特徴とする請求項 4 に記載の装置。

【請求項 6】  
前記アウトレット部は、シュレム管の内面に対して摩擦係合を作用させるように形成された少なくとも 1 つの突出部を有することをさらに特徴とする請求項 1 から 5 のいずれかに記載の装置。

【請求項 7】  
前記突出部は、少なくとも 1 つのかえしを含むことをさらに特徴とする請求項 6 に記載の装置。

【請求項 8】  
前記突出部は、少なくとも 1 つのうね状隆起部を含むことをさらに特徴とする請求項 6

に記載の装置。

【請求項 9】

前記インレット部及びアウトレット部の少なくとも 1 つに逆止弁を備えることをさらに特徴とする請求項 1 から 8 のいずれかに記載の装置。

【請求項 10】

前記セトンは、細長い部材内に配置されることをさらに特徴とする請求項 1 から 9 のいずれかに記載の装置。

【請求項 11】

切断部材が、前記細長い部材の前記遠位端部に配置されることをさらに特徴とする請求項 10 に記載の装置。

【請求項 12】

前記切断部材は、ナイフ、レーザープロブ、鋭利なガイド部材、前記管の鋭利な遠位端部、及び超音波カッターからなる群から選択されることをさらに特徴とする請求項 11 に記載の装置。

【請求項 13】

前記細長い部材は、前記眼球内への流体注入を可能とするように形成された開口部を有することをさらに特徴とする請求項 10 に記載の装置。

【請求項 14】

前記セトンを前記管内で前進させ前記眼球の繊維柱帯内に配置し得るように形成された、前記細長い部材の内腔内のガイド部材をさらに特徴とする請求項 10 に記載の装置。

【請求項 15】

前記細長い部材は、前記細長い部材の遠位端部へ流体を送る内腔を含むことをさらに特徴とする請求項 14 に記載の装置。

【請求項 16】

前記セトンは、剛性または半剛性を有することをさらに特徴とする請求項 1 から 15 のいずれかに記載の装置。

【請求項 17】

前記セトンは、唯一のインレット及び唯一のアウトレットを有することをさらに特徴とする請求項 1 から 16 のいずれかに記載の装置。

【請求項 18】

前記セトンは、前記インレット部とアウトレット部との間に肘状屈曲部を有することをさらに特徴とする請求項 1 から 16 のいずれかに記載の装置。

【請求項 19】

前記セトン内に配置されたマイクロポンプをさらに特徴とする請求項 1 から 18 のいずれかに記載の装置。